

まちづくりキャッチフレーズ 人と自然と文化がつくる「キラリと光る新中核都市」

倉吉からまた新たな伝説が、 「SATOMI 外伝」もうひとつの八犬伝 倉吉未来中心・小ホール



▲若侍(堀江信乃)と魔物(妖狐)との壮絶な戦いの一場面

11月19日(日)、倉吉未来中心で、SATOMI 外伝～もうひとつの八犬伝～(SATOMI 外伝制作実行委員会主催)が上演されました。滝沢馬琴の名作「南総里見八犬伝」をモチーフに、「市民影絵劇団みく」と中部の協力団体による冒険ファンタジーとして制作されました。

当日未来中心小ホールには約330人が詰めかけ、美しい影絵と役者たちの織り成す幻想的な世界に魅了されました。

CONTENTS

- 特集「すべての市民の幸せを…」
倉吉市同和教育研究会 …… 2～3
- 倉吉の財政を知るシリーズ(最終回) …… 4
- 確定申告の受付相談会場が変わります! …… 5
- 来春は保育園ですネ(保育所入所申込) …… 6
- 年末の交通安全県民運動/市議会報告/
市議会定例会のお知らせ …… 7
- ハート・バリアフリー …… 8
- 遙かな町へ/地域計画 …… 9
- 出かけてみよう! …… 10～11
- インフォメーション …… 12～15
- あんしんファイル …… 16

すべての市民の幸せを……

倉吉市同和教育研究会(市民活動委員会)

人権週間(12月4日～10日)にあたって

昨今、学校でのいじめ、自殺がテレビや新聞をにぎわせ、文部科学省から全国の小・中学校・高等学校に対して、緊急調査を行うという通知がありました。

私たちは、36年前、部落差別解消の取り組みを通して、さまざまな差別をなくすため、倉吉市同和教育研究会を発足し、倉吉市集会などで実践を深めてきました。

今回は、「人権週間」特集として、すべての市民の幸せのために、そして各関係機関や一般の人への市集会や市同研などの理解・啓発を求めて、9月3日(日)に行われた市集会を取り上げます。

倉吉市集会のあゆみ(基調提案より)

部落を解放する教育の創造と

行政の確立を(昭和48年～53年)

(1973年～1978年)

市集会は小・中学校の同和教育から、社会同和教育へと、模索しながら広がりました。

集会は、職種ごとの分科会方式で、具体的な実践発表を基にした取り組みが増えてきました。

部落の完全解放を

全市民の力で(昭和54年～59年)

(1979年～1984年)

全市民が部落解放を自分の課題として自覚し、課題別分科会で、意見交換

が行われるようになりました。

また、地区公民館ごとの同和教育研究会や同和教育推進員組織などが充実してきました。

人権宣言のまち倉吉をより確かなものにするために

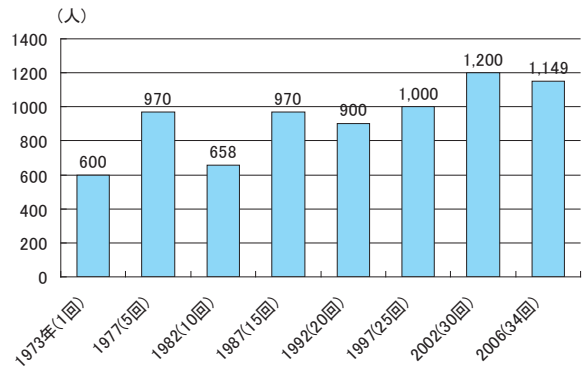
(昭和60年～平成8年)

(1985年～1996年)

地域改善対策特別措置法が「部落の完全解放」に十分いかされず、部落差別が多発している現状が明らかになり、「部落解放基本法」制定の必要性を確認しました。

また、「倉吉市部落差別撤廃とあらゆる差別をなくする条例」の具体化と、部落解放に向けた人権啓発および反差別の市民運動の重要性を確認しました。

倉吉市集会参加者数



豊かな人権文化の創造をめざして

(平成9年～1997年)

市民一人ひとりが、共生社会を生きる人権文化の主体者となるため、「部落の完全解放と人権の確立を全市民の力で」を目指しています。

参加された人からの感想

人権問題講演会より

子どもは「社会の宝」

近年、新聞やテレビの報道から流れて来る子どもへの虐待・子殺し親殺し、子ども同士のいじめなどのニュースがあまりに多く心を痛める毎日。

子どもは「社会の宝」「社会の活力の源」と本當につくづく思う日々ですが、このような事象は遠くの出来事ではなく、倉吉市でも在り得ることではないでしょうか。

部落解放研究 倉吉市集会



開会式

子どもたちが、周囲の大人たちの都合で、健やかに育つ権利が保障されていないと感じていたところに、森田ゆりさんの「子どもの人権」～生きる力の源へ～の講演をちょうど聴くことができ、あらためて大人と子ども、親と子、自分と子どもたちについて見つめ直す機会をいただきました。

子どもたちが真の生きる力を身につけるために、子どもたちのそばに寄り添う大人が増えることが重要です。

各分科会より

「就学前学校教育と進路保障では」

総合的な学習「ふるさとタイム」の取り組みから

担当したグループの活動(聞き取り・アンケート調査)や劇でのステージ発表に至るまでの苦勞、その取り組みを通しての心の葛藤や人権意識の変容などの報告がありました。



熱心に聞き入る参加者



分科会で話される参加者

この学習によって、地域の人とのふれあひ、人の優しさやすばらしさに共感し、日常的な交流も増えています。

こうした活動を積極的に取り入れながら、一人でも多くの生徒が、自分の問題として差別と向き合い、差別をなくしていく力をつけてほしいものです。

「男女共同参画では」

①アメリカと日本で働いたAさんは：

両国の大企業で働いた経験をもつAさんの報告は、アメリカと日本の採用方法の違いについてでした。アメリカは「国籍は問わず同一とし、年齢制限や男女の格差もなく、仕事の能力を評価します。そのためキャリア志向の女性には快適な職場です。それに比べて日本では、経歴は同じでも、男性を多く採用する傾向にあるようです。日本は国際的であるのに、採用方法がまだ古いと感じました」。

②女性消防士Bさんは：

「消防士は、今まで男性の職場とされてきたため、施設の改善が必要なことや、訓練の内容は男女同じできついでけれど、後々のためにレベルは高くして挑戦したい。また女性だからできることもありますが、できないと言えることも大事です」

「国内には女性の消防署長も誕生しています。「限界を決めずやってみる」ということ、女性消防士として気づくことを大切にして、女性である以前に自分らしさで勤めたい」と話されました。

この①②の報告を通して、男女が互いの人権を侵さず、尊び、生き生きと暮らせる社会が実現するまでには、課題がたくさんあると実感しました。「男女共同参画」といえば、女性の言いつ分を聞く会と思われがちですが、と

もに生きる社会の実現のため、互いの選択肢を自分の価値観で狭めたりせず、選択肢の広がる社会になるよう努めたいものです。

「あらゆる差別の解消では」

罪を犯した人のその後

罪を犯した人は、社会復帰をしても世間に冷たい目で見られています。それは、社会の「無理解・無関心」から来る差別と偏見です。

罪を犯した人の自らの学習はもとより、私たち自身が、その人を温かく受け入れる心づくりが必要です。また、被害者救済制度の充実も急務です。

ハンセン病は治る病気

平成8年「らい予防法」が廃止され、法律上では自由が約束されているのに、差別と偏見が依然と残り、安心し

て生活できない現実があります。

それは、多くの人の無理解や無関心から来る偏見が立ちはだかつているからです。社会からこの偏見や差別を取り除かないかぎり、「真の人間らしさ」を取り戻せません。私たちは積極的に自分から機会をつくって社会の発する情報に関心を持ち、何が差別なのか、正しく判断できる力を養っていくことが大切です。人の命や生き方にかかわる人権学習が必要だと強く感じました。

「おわりに」

情熱と行動力を

人権問題を学習するとき、具体的な課題を取り上げないで、人権を抽象的な価値観や心情主義的な心に置き換えてしまつてはいけないと思います。

市民一人ひとりが、人間らしく生きることの意味を問いつけ、それを実現しようとする情熱と行動力を持つことによつて、人権が保障される社会の実現が可能となります。そういう願いや思いを「社会の中で実現する実践力」を身につける人権学習をめざしていきましょう。

倉吉市同和教育研究会は、より多くの会員を募集しています。どなたでも自由に加入できます。

現在、1,285人の会員がさまざまな活動をしています。

※問合せ先…倉吉市人権文化センター
22-4768 / FAX 22-4901



打吹公園名物
おさるさん

平成19年度予算～打吹公園の仲間たちと倉吉の財政を知るシリーズ～

最終回

今回は国の歳出、税収と国債発行額の推移、地方全体の地方交付税額の推移、そして平成19年度倉吉市の予算の見通しについてお話しします。

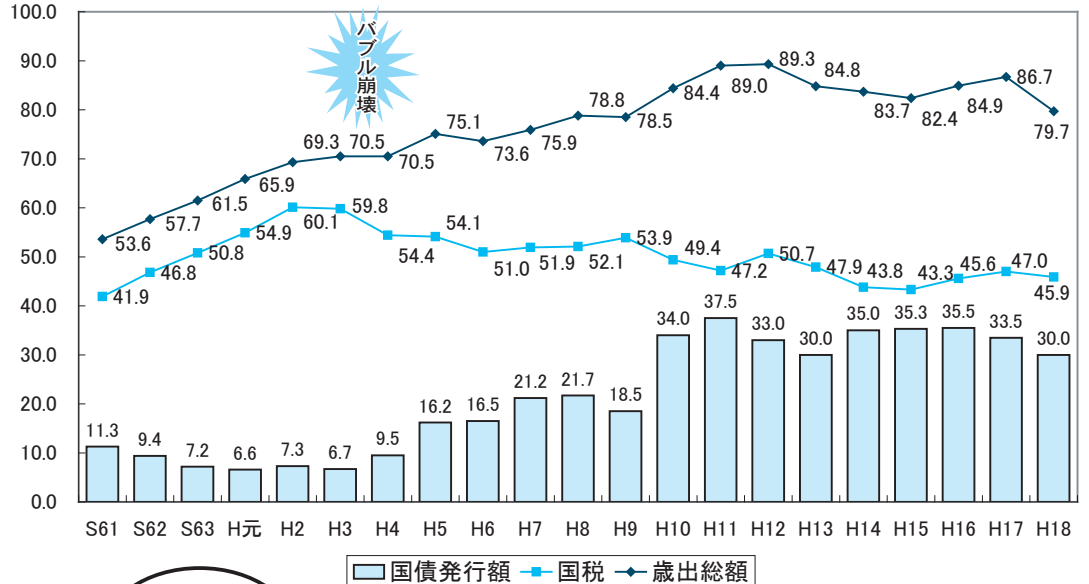


国債をたくさん発行したね

平成3年ごろのバブル崩壊で、それまで安定して伸びていた国税の収入が減少してしまいました。そこで景気を刺激して再び税収を増やそうと、国はかつてないほど多額の国債を発行し、歳出を増やし続けました。しかし景気は思ったほど好転しませんでした。

兆円

国の歳出と税収の推移



国債をたくさん発行し続けると



借入がかさねということだね



15年度までは交付税が増え続けたんだよ



「三位一体の改革」で急に交付税が減ってるね

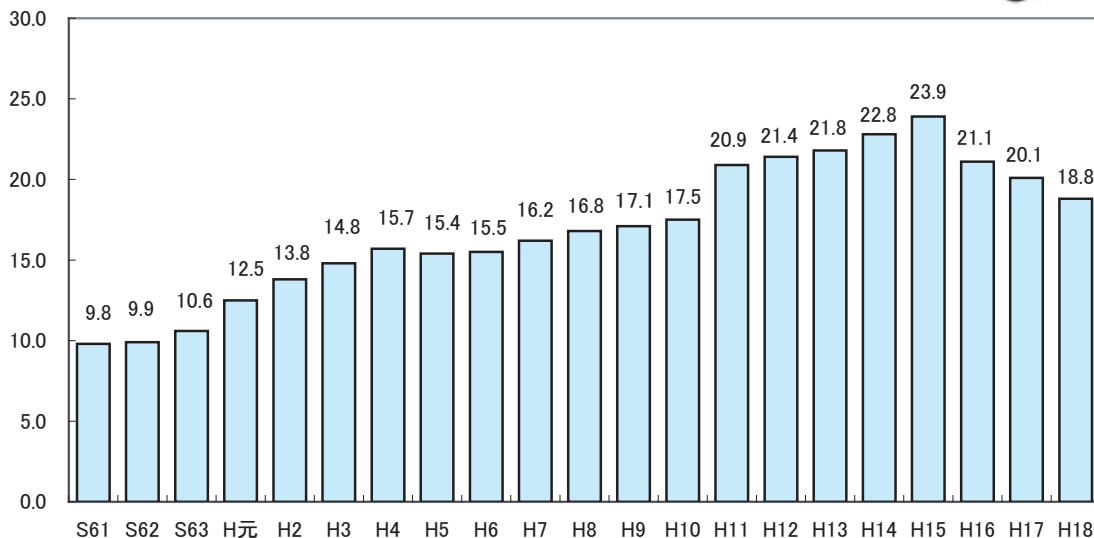


地方も交付税におんぶにだっこじゃだめだね



兆円

地方交付税(臨時財政対策債含む)



悪化した国の財政を再建するために行われたのが、地方への支出(交付税と補助金)の削減でした。これが平成16年度に本格的に始まった「三位一体の改革」です。三位一体の改革によって国からの交付税に多くを頼っていた地方自治体の財政は一気に悪化していきました。これは倉吉市でも同じことで、ここ数年はお金のやり繰りに四苦八苦しているのが現状です。

平成19年度の見通しはどうでしょう。8月に発表された国の地方財政収支仮試算を倉吉市に当てはめて考えると、地方交付税と臨時財政対策債との合計で2億円の減、減税補てん債と地方特例交付金との合計で1億円の減となります。このため、平成19年度の歳入は、18年度と比較すると一般財源ベースで3億円程度の減額が予想され、これまで以上に厳しい予算編成を行う必要があります。そのため、公債費負担適正化計画や財政健全化計画をもとに将来にわたって持続可能な財政運営を目指した予算編成を行う予定です。

来年も厳しいぞ



のいこえていかなくちゃ



なんだからあし明るい倉吉の未来をみんなぞつくらあぞ





みんなの

あんしんファイル

保健事業に関するお問い合わせは、健康支援課 (TEL26-5670 / FAX26-5660)

健康支援課の場所は、伯耆しあわせの郷2階です。

健康相談

対象	日程	時間	ところ	内容
食事や健康面についてどなたでも気軽にご相談ください	12月21日 (木)	受付 13:30~15:30	関金総合文化センター (関金庁舎隣)	栄養士・保健師による個別相談 *栄養士の相談は要予約(TEL26-5670)
	12月25日 (月)		倉吉市役所 第4会議室 (東庁舎2階)	栄養士・保健師による個別相談 *栄養士の相談は要予約(TEL26-5670)

*希望によって血圧測定、体重測定、体脂肪・内臓脂肪レベル測定ができます。相談日以外でも健康支援課で随時相談を受け付けています。

医療機関での受診券を使った健診は12月末までです

平成18年度倉吉市健康診査受診券(40~69歳:青色封筒、70~84歳の基本健診:緑ハガキ、70~84歳のがん検診および85歳以上:黄緑色)の利用期限は、12月末(医療機関で最終診察日は異なります)までとなっています。今年度まだ健診を受けていない人は、お早めに受診券を使って受けてください。

※70歳以上の人ががん検診、および85歳以上の人の各種健診は申込をして受診券を取り寄せてください。

申込方法:電話などで健康支援課に申込をしてください。

健康診査内容:基本健診・胃がん検診・肺がん検診・大腸がん検診・子宮がん検診・乳がん検診(乳がん検診は平成17年度受診された人は受けられません) ●料金など詳しくは、4月に配布してあります「くらよし健康ガイド」をご覧ください。

※申込・問合せ先:健康支援課 (TEL 26-5670)

休日健診の時間と場所の変更

くらよし健康ガイドやちらしなどでお知らせしていましたが12月10日(日)の休日健診について、次のとおり変更があります。お詫びして訂正いたします。

《変更前》

受付時間	午前9時~10時
場所	県立倉吉体育文化会館

《変更後》

受付時間	午前8時~10時
場所	市保健センター(伯耆しあわせの郷内)

※問合せ先:健康支援課 (TEL 26-5670)

献血にご協力ください【全血献血】

期日	場所	時間
12月21日(木)	パープルタウン	11:00~17:00
12月24日(日)	倉吉未来中心	10:00~15:00

※申込・問合せ先:鳥取県赤十字血液センター (TEL 0857-24-8101)

毎月19日は **食育の日**

朝ごはんは一日の元気のもと! 必ず食べよう!!

内容:ミニ講話・簡単レクリエーション
 参加料:1,200円(昼食・入浴料)
 ※送迎希望の人は、送迎します。詳細はお問い合わせください。
 ※申込・問合せ先:長寿社会課 (TEL 22-7851 / FAX 22-7020)

福祉 Mel fare 社

12月ホツといいき教室 ~ 介護予防教室 ~

上灘・成徳地区の元気な高齢者づくりを目指し、介護予防教室を開催します。

『色は心のメッセージ』といわれ、生活の中で『カラー(色)』が人の心と身体に大きな影響を与えているようです。

色を生活に取り入れて、気分も身体も元気に楽しく暮らしましょう。

とき:12月16日(土)午前10時~11時30分(受付9時30分)

ところ:成徳公民館

テーマ:「カラー(色)を楽しんで明るい生活を!」

講師:カラーコーディネーター 田中良枝さん

対象者:上灘・成徳地区にお住まいの人

参加料:無料

※介護予防教室終了後、センター職員による個別相談を受けれます。お気軽にどうぞ。

※申込・問合せ先:倉吉中央地域包括支援センター(上灘・成徳) (TEL 22-6102 / FAX 22-6106)